

たたら製鉄/大学境先生出前授業～6年生（10月7日）

先週の金曜日、本校の特色ある活動の一つである、大学釧路校境先生や学生の皆さんと連携した活動、「たたら製鉄」を実施しました。

「鹿児島で火縄銃ができたのはなぜ？」という問いから、火薬によって鉄砲が逆噴射しないようにする技術を獲得し、それらを売り物にした堺の商人から、織田信長が鉄砲を買い取り、「長篠の戦い」につながるまでのお話を境先生がしてくださいました。社会「全国統一の道」の学習内容を思い返しながらか、「なるほど」「そういうことだったんだ！」と自分の学びと結び付けながらお話を聞く様子が見られました。



リアルな「火縄銃」の登場に、ドキドキです…

- ◆「たたら製鉄」とは、炉に空気を送り込むのに使われる鞆（ふいご）が「たたら」と呼ばれていたために付けられた名前であるそうです。
- ◆砂鉄と木炭を燃焼させて鉄をつくりだす日本古来の製鉄法であり、純度の高い鉄を生産できることを特徴としているのだそうです。



私たちの歴史には「鉄づくり」が欠かせなかったことや、鉄づくりがいかに大切にされてきたのかについて理解を深めたら、いよいよ実際に製鉄を体験します！

「ふいごから空気を送り込む」「木炭を切り、量を調節しやすくする」「木炭と砂鉄を適度な割合に分ける」「火を観察する」「踏み板を踏み続ける」など、たくさんの工程があります。





製鉄の過程で、不純物を出す工程があり、「のろ」と呼ばれるそうで、のろが出ると言うことは、炉の中の鉄の純度が上がるということだそうです。



かたまりを取り出しています！

できているかな？

期待に胸を弾ませる子供たちの姿・・・炉から出てきた塊を、水の中に入れると、大きな音と共に、一瞬で水が沸騰します。一回一回、「おお～！」「すごい！」と歓声が上がっていました。

出来た塊が、ちゃんと鉄になっているかどうかを調べるには、叩き割ってみます。もしも崩れてしまったら失敗・・・「かんかん」という音がなったらそれは鉄のかたまりなのだそうです。

その日の気候や気温、砂鉄と木炭の配合などで、どれくらい鉄ができるのかは、大きく変化するそうです。

今回の結果は果たしてどうだったでしょうか・・・？

昔の人のすごさ、大変さを実感するとともに、教室での「学び」を「実際」とつなげていく子供たちの様子や、貴重な体験に感動の声をあげる子供たちの様子を見ることができました。